

ゼロカーボン協力隊とは

目的

小城市民や小城市内の事業者へ
カーボンニュートラルを普及啓発すること

手段

SNS、壁新聞、ワークショップなど

自己紹介

氏名 林 玫辛 (LIN WENSHIN)

出身 台湾

前住地 東京、沖縄

経歴 防災コンサルタント

探究学習コーディネーター



社会教育士

2か月間の活動

地域交流

脱炭素の勉強

公式インスタグラム立ち上げ

Instagram profile card for **ogi_2050cn**. The profile picture shows a pink building with a speech bubble saying "ノート...". The bio reads "ゼロカーボン🌱協力隊" (Zero Carbon Collaboration Team). Statistics show 2 posts, 51 followers, and 20 following. The bio also includes "ムツゴロウ 一年生になって ともだち100人をつくるぞ" (Mutsugorou, becoming a first-year student, making 100 friends) and "【運営】佐賀県小城市地域おこし協力隊" (Operation: SAGA Prefecture Komaki City Community Revitalization Collaboration Team). A QR code is provided to follow the account, with the handle **OGI_2050CN** written below it.

工夫・試行錯誤

社会教育の視点×サイエンスコミュニケーションの視点

範囲「小城市」をどう捉えるのか

ネタは小城市内の実話、実体験 →付帯効果:小城市全体で頑張っている肯定感
脱炭素の課題や対策は世界共通 →小城市内外や市民/事業者の違いを意識させない

VoL.001

さっき人から使ってないものをもらうた

今日は公民館でなんしてあそぼうかな〜

ogi_2050cn 1日前
冷蔵庫を替える時にできる脱炭素🌍🌟
👍「削減貢献量」の多い冷蔵庫を選ぶ
👍まだ使える冷蔵庫を活用する

📍小城公民館岩松支館 **広める仕掛け**

#家電
#公民館
#カーボンニュートラル
#netzero
#淨零碳排

普及啓発はどのような行動変容を期待するのか

現状:脱炭素につながるの選択肢を提供する
展望:判断を補助する情報を発信する

今後の活動

Instagramのネタ(小城市内の実話、実体験)

現状:協力隊員からアプローチ

展望:DMなどで取り上げてほしいネタ(市内限定)を募集

対面のイベントを開催

放課後子ども教室事業、地域行事、学校行事などの現状把握

壁新聞などの媒体でPR

脱炭素に限らず、地域おこし協力隊・集落支援員のことも